

◇会議報告◇

カナダ会計基準審議会（AcSB）及びカナダサステナビリティ基準審議会（CSSB）との会合の概要

ASBJ 常勤委員 山口 奈美
SSBJ ディレクター 桐原 和香

1. はじめに

2024年1月8日及び9日、企業会計基準委員会（ASBJ）とカナダ会計基準審議会（Accounting Standards Board; AcSB）の代表者は、モントリオールで会合を実施した。この会合は、ASBJとAcSBとの間で開催された5回目の二者間会合であった。また、サステナビリティ関連事項については、サステナビリティ基準委員会（SSBJ）とカナダサステナビリティ基準審議会（Canadian Sustainability Standards Board; CSSB）が設立されてから、初めての二者間会合を実施した。

今回の会合は、1日目に会計について、2日目にサステナビリティ関連事項とコネクティビティについて、それぞれ議論が行われた。

会計セッションには、AcSBからArmand Capisciolto議長、Michel Charbonneau副議長及び3名の委員に加えて複数のスタッフが出席し、日本からは川西ASBJ及びSSBJ委員長、並びに筆者2名が出席した。今回の二者間会合では、お互いの活動の最新の状況を紹介するとともに、両基準設定主体が共通の関心を有している項目についての議論が行われた。

また、2日目には、CSSBのCharles-Antoine St-Jean議長及びスタッフも参加し、サステナビリティ報告と財務報告のコネクティビティについての議論が行われ、その後、SSBJとCSSBにより両基準設定主体が共通の関心を有している項目についての議論が行われた。

なお、文中の意見にわたる部分は私見であり、所属する団体・組織の見解ではない。

2. 主な議題

会合の主な議題は次のとおりであった。

- ASBJ 及び AcSB からのアップデート
- 個別論点
 - 電力購入契約
 - 財務諸表における気候関連及びその他の不確実性
 - カーボン・クレジット、キャッシュ・フロー計算書、並びに無形資産及び暗号資産に関するリサーチ・プロジェクト
- サステナビリティ報告と財務報告のコネクティビティ
- SSBJ 及び CSSB からのアップデート
 - サステナビリティ開示基準の開発及び適用に向けた取組みの進捗状況
 - ISSB のアジェンダ協議

3. 議事概要

- ASBJ 及び AcSB からのアップデート

両者は、国際的な活動及び国内基準開発に関する現在のアジェンダについて情報共有と意見交換を行った。ASBJ からは、リース及び金融商品の減損に関するコンバージェンス・プロジェクトにおける議論の状況、経済協力開発機構（OECD）の第2の柱モデルルールに対応した基準開発の状況、国際会計基準審議会（IASB）の IFRS 第9号「金融商品」及び IFRS 第15号「顧客との契約との契約から生じる収益」の適用後レビュープロジェクトに対する意見発信の状況等が共有され、議論が行われた。

AcSB からは、スケーラビリティ（企業の階層化及び階層に応じて適用される会計基準の開発）、企業結合及びのれんの事後の会計処理の再検討、並びに収益認識会計基準の改正に関する国内会計基準開発関連のプロジェクトの状況について共有され議論が行われた。さらに、IASB の資本の特徴を有する金融商品（FICE）に関する公開草案の検討状況、将来の収益に応じて返済額が変動する負債の IAS 第1号「財務諸表の表示」に基づく流動・非流動分類に関する論点の検討状況等が共有され、議論が行われた。

- 個別論点

電力購入契約並びに財務諸表における気候関連及びその他の不確実性について、IASB における最近の議論に対する意見交換が行われた。カーボン・クレジット、キャッシュ・フロー計算書、並びに無形資産及び暗号資産については、AcSB において進行中のリサーチ・プロジェクトにおける検討状況が共有され、議論が行われた。カーボン・クレジットについては、カナダではクレジットの売却取引に対する IFRS 第15号の適用についても議論の対象になっていることなどが紹介された。キャッシュ・フロー計算書については、キャッシュ・フロー計算書の形式、キャッシュ・フローに関する Non-GAAP 指標の使用状況の調査、金融機関におけるキャッシュ・フロー計算書が

リサーチの対象となっていることなどが紹介された。ASBJ からは、暗号資産に関する国内基準開発プロジェクトに関するアップデートなどが共有された。

- サステナビリティ報告と財務報告のコネクティビティ

IFRS 解釈指針委員会で議論されている気候関連コミットメントの議論からもわかるとおり、サステナビリティ報告との関係から財務諸表の利用者の層が拡大している状況があり、これを踏まえてコネクティビティの観点から財務諸表の目的の見直しが必要となるかどうかについて、議論が行われた。また、日本及びカナダでは、いずれも財務報告とサステナビリティ報告に関して別個の委員会が設立されていることから、IASB による「経営者による説明」プロジェクトに関する議論をどちらの委員会で取り扱うかや、委員会間の協働の仕組みなどについても意見交換がなされた。

- SSBJ 及び CSSB からのアップデート

SSBJ 及び CSSB から、IFRS サステナビリティ開示基準を基礎としたサステナビリティ開示基準の開発状況及び適用に向けた取組みの進捗状況について説明がなされ、意見交換が行われた。

SSBJ からは、サステナビリティ開示基準の開発にあたり、ボードメンバーの間で意見が割れている論点の紹介や、今後のスケジュールについて説明がなされた。また、CSSB からは利害関係者に対するアウトリーチの状況や、今後のスケジュールなどの説明がなされた。

また、ISSB のアジェンダ協議について、それぞれの法域の市場関係者から特に関心が寄せられているアジェンダの項目について、意見交換が行われた。

4. 次回の予定

会合の最後に、川西委員長及び AcSB 議長により、今回の会合が有意義であったこと、及び、今後もカナダ又は日本にて対面での二者間会合を継続することが望まれることが確認された。

國際關連情報



以上